

奥天昌樹 Masaki Okuten

P1 ステートメント

P2 出展作品について

P3 略歴

## ■ Statement

奥天昌樹の絵画は、言語化される以前の感覚や記憶を手がかりに、鑑賞者が無意識の深層へと沈潜していくような体験を促すことを目的としている。私は絵画におけるプロセスを「積層」と捉え、キャンバスに重ねられた絵の具の層には、私が作品と向き合ってきた時間と行為の痕跡が刻まれている。そこには、可逆と不可逆、足し算と引き算、残すことと取り除くことが交錯し、絵画空間に時間の往還を生み出している。

私は、意味づけされていないミニマルな痕跡にこそ、新たな価値や意味の発芽点が潜んでいると考えている。意味のないものの中にこそ、意味の起源が眠っているのだ。

作品に用いられる線の多くは、5歳未満の幼児による落書きをもとにしている。人間としてのアイデンティティが形成される以前の線に、原初的かつ普遍的なエネルギーを感じたことが、その理由である。私は葉書大の紙に描かれた幼児の線を約600倍に拡大し、キャンバスに貼ったマスキングテープにトレースした後、カッティングして最下層に埋め込む。その線は長い時間、絵具の層に覆われたまま潜伏し、制作の最終段階でマスキングを剥がすことで、画面最前面に白く凹んだラインとして浮かび上がる。

この行為は、まるで松明の揺れる影をトレースして描かれた洞窟壁画の描き手と筆談するかのよう、時間と空間を超えて他者の存在と接続する試みでもある。

私にとって抽象絵画は一種の「言語」である。明確な語彙体系をもたないそれは、断片的で非連続的な表現でありながら、独自の語彙を蓄積していく。一方、私の絵画は「非言語」的であり、ミニマリズムや具体派の系譜に属するかもしれない。目的は、非言語の領域において鑑賞者と新たな価値や感覚を共有することである。

制作において最下層に仕込まれた線は、作品に没入していた視線を意図的に遮るように配置されている。その瞬間、鑑賞者は深い沈潜から現実へと引き戻される。この視覚的転換は、私の絵画において最も重要な瞬間であり、過去と現在、他者と自己、言語と非言語が交差する場となる。

## ■ About the Exhibited Works



Left: 『untitled』 2018 / 410 × 318 × 18 mm / oil, canvas on panel

Right: 『null gem#9』 2025 / 196 × 272 mm / mixed media on paper

本展では初の紙作品と未発表の油彩作品を発表します。

これまで油彩を中心に作品を展開してきましたが、油絵特有の強いコントラストやマチエール、キャンバスという支持体の存在感に頼らない表現では、狙いや意図がより明確に問われるため、時折ドローイングをしたり、水彩絵具でイメージを探ることが多々ありました。

額装については、作品と展示空間とのあいだに断絶を生むようで懸念もありましたが、反面、内部の世界観が一つひとつ確立されたジュエリーボックスのようにも感じられました。

作品を生み出すための習作は、まさに文字通りの“原石”でした。

この展示が、一期一会の出会いとじていただけたら幸いです。

null：無・空・未定義・虚無

gem：宝石・価値あるもの・埋もれたもの

視覚要素（層、沈黙、光の痕跡）＋ 概念要素（未定義、価値の再発見）

= null gem（未定義価値）

## ■ Exhibition History (June 2025)

### 個展

- 2024 「Pieces」 (Gallery URO、大阪)
- 2024 「カットバック」 (Gallery10TOH、東京)
- 2022 「photic layer」 (Gallery Hayashi+artbridge、東京)
- 2022 「s.p.a.c.e」 (代官山 蔦屋書店、東京)
- 2022 「Heptapod」 (MU gallery、東京)
- 2021 「The nursery」 (GINZA SIX 蔦屋書店、東京)
- 2021 「A Whiter Shade of Pale」 (GalleryHayashi+artbridge、東京)
- 2021 「GINZA ART YARD」 (GINZA SIX 蔦屋書店、東京)
- 2020 「#Blombos Cave」 (MEDEL GALLERY SHU、東京)
- 2016 「Put the stone」 (みんなのギャラリー、東京)
- 2009 「immature efect」 (GALLERY b. TOKYO、東京)

### グループ展

- 2025 「Painting recipes」 (Gallery10TOH、東京)
- 2025 「環世界」 (みんなのギャラリー、東京)
- 2024 「Modal Landscape」 (みんなのギャラリー、東京) 2024 「Dance to your Heartbeat」 (Empathy gallery、東京)
- 2023 「点景」 奥天昌樹×小左誠一郎 (Gallery10TOH、東京)
- 2023 「In Different Ways」 (GalleryHayashi+artbridge、東京)
- 2023 「Chapter1」 奥天昌樹×萩野真輝 (KEN FINE ART、大阪)
- 2023 「When in Tokyo」 (J12 contemporary art by Jason、香港)
- 2022 「WHAT CAFE EXHIBITION」 (what cafe、東京)
- 2022 「Resuci-Anne」 Masaki OKUTEN×Kentarō Takahashi (Gallery Ether、東京)
- 2022 「Relive -artworks FUkuoka 2022-」 (UNION SODA、福岡)
- 2022 「art stage OSAKA」 (堂島リバーフォーラム、大阪)
- 2021 「artworks NAGOYA」 (名古屋国際idcNデザインセンター、愛知)
- 2021 「After the 3331」 (Gallery Hayashi+artbridge、東京)
- 2021 「3331 Art Chiyoda ART FAIR」 (3331 Art Chiyoda、東京)
- 2021 「HASSHIN」 奥天昌樹×にいみひろき (MU gallery、東京)
- 2021 「estate」 ( ZEIT-FOTO Kunitachi、東京)
- 2021 「JMC Japan mastery collection」 (六本木ミッドタウン、東京)
- 2017 「Re:OPEN」 (みんなのギャラリー、東京)
- 2016 「Morning Star #1」 (NANZUKA、東京)
- 2015 「マントル #11」 (トーキョーカルチャート by ビームス原宿、東京)
- 2012 「My Favorite 4 Artists」 (ZEITO-FOTO SALON、東京)2010 「via art 2009 prize exhibition」 (シンワアートミュージアム、東京)

### 受賞歴

- 2014 第3回 D アートビエンナーレ 優秀賞
- 2013 GEISAI#18 ホルベイン賞
- 2009 viaart2009 KURATA賞